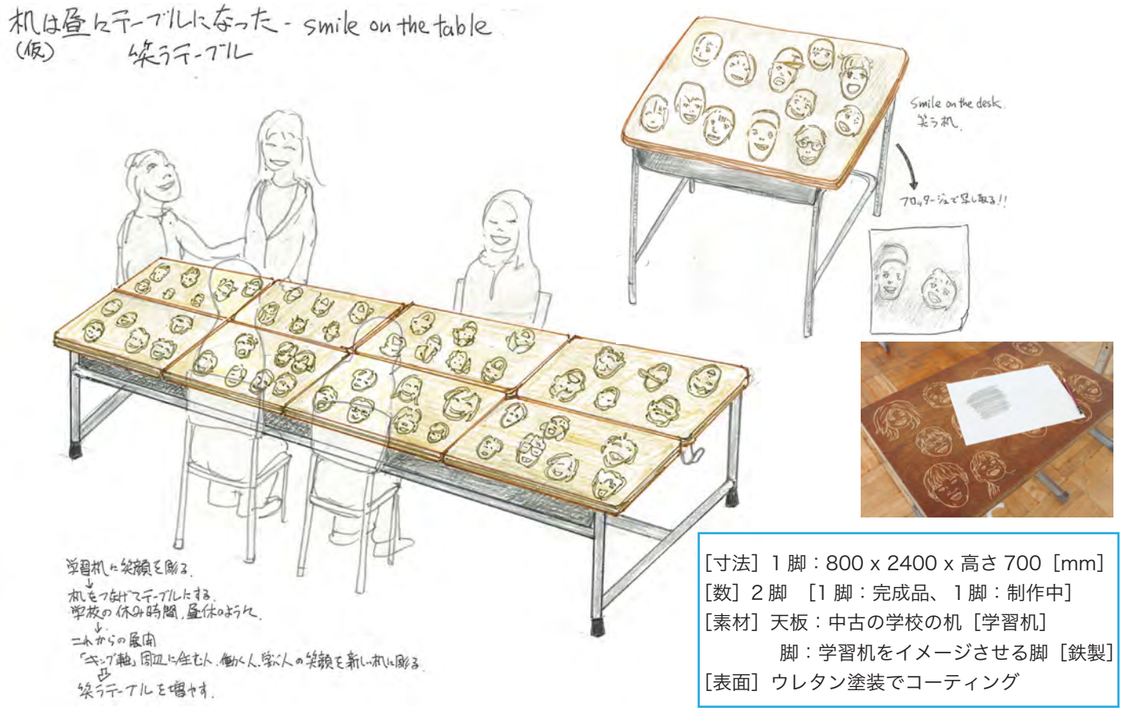
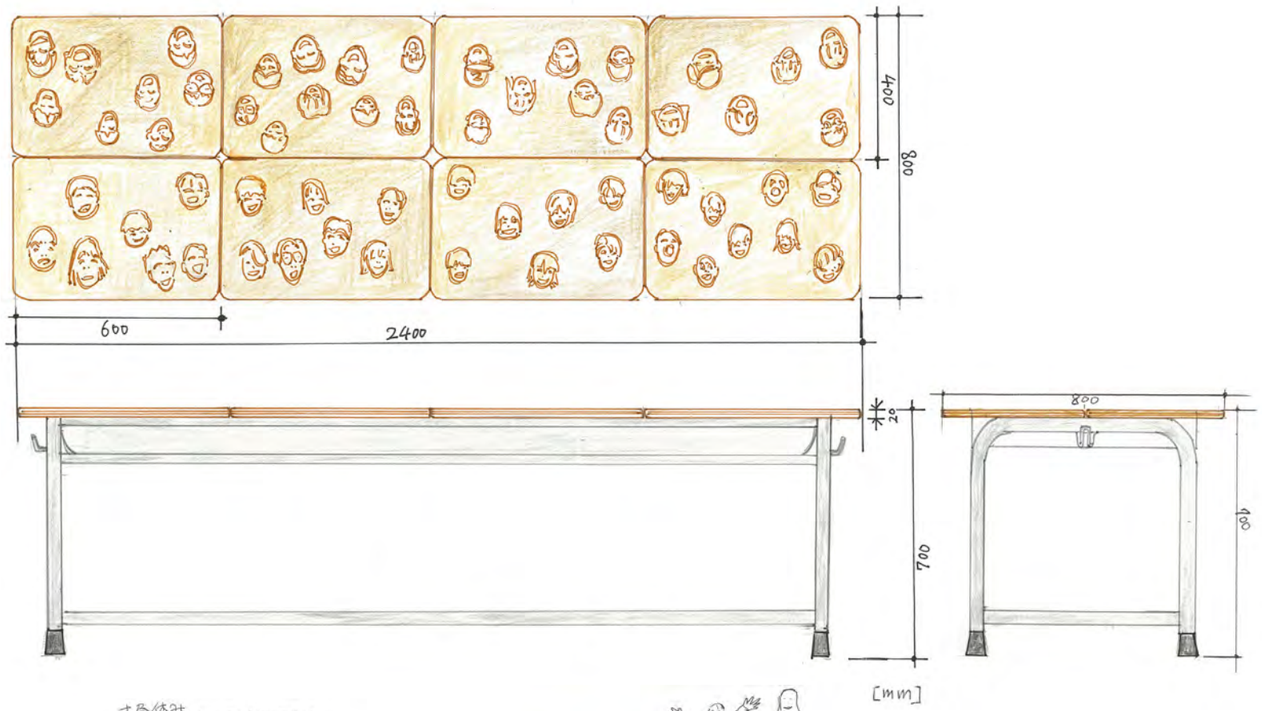
『(仮) 机は昼にテーブルになった - smile on the table』



[寸法] 1 脚：800 x 2400 x 高さ 700 [mm]
[数] 2 脚 [1 脚：完成品、1 脚：制作中]
[素材] 天板：中古の学校の机 [学習机]
脚：学習机をイメージさせる脚 [鉄製]
[表面] ウレタン塗装でコーティング



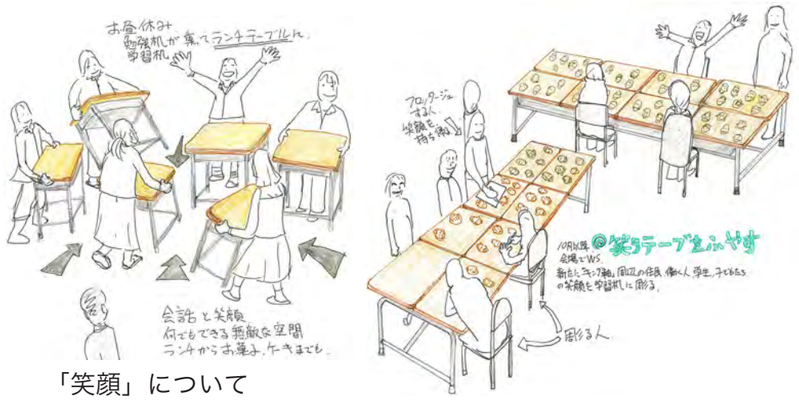
1, 学校の机に笑顔を彫る。

2, 机をくっつけてテーブルにする、学校の昼休みのように。

3, 鉛筆でこすれば笑顔を写し取ることができる。(※フロッタージュ) 笑顔を持ち帰れる。

--[展開]--

4, 新たに「キング軸」の周辺に住む人、働く人、学ぶ人の笑顔を撮影し机に彫る。
笑うテーブルを増やす。



「机」が集まり「テーブル」になった

学生時代、昼休みや休み時間に学習机をくっ付けて食卓「テーブル」を作った。
大きなグループに属していないひねくれ者の私だったが、どこも楽しそうな会話と笑い声でオープンな雰囲気が心地よく、好きな時間だった。
「キング軸」の周辺で、働く人、住んでいる人、学ぶ人、それぞれが交わり新しい交流の場所を作ろうという今回の試み。
多様性と相性が良い「アート」で作る「テーブル」で、人の流れを留めて「よどみ」を作ろうという。とても興味深いと感じた。

真っ直ぐに流れる平坦な川は魚は住みにくい。
様々は障害物が底に沈み流れが蛇行し、魚が休める「深み」や「淵」「よどみ」を作る。流れのある「瀬」で彼らは食事をする。
それが魚の生きやすい環境です。
人も魚と同じ生き物。蛇行し「深み」「淵」「よどみ」が生活には必要で、それを私は「笑うテーブル」で作り出せればと思っている。

今回、このプロジェクトには 4 カ所で撮影した人々の笑顔をモチーフにしている。
茨城県守谷市の子どもたち、北海道の学生、台湾レジデンス時に撮影した一般の人たち、千葉県市原市の人々、そして、横浜の人々です。
そして新たに「キング軸」の周辺に住む人、働く人、学ぶ人の笑顔を撮影しテーブルに彫り続けようと考えている。
笑うテーブルを増やし、さらに立ち止まれる場所を作り続ける。

「笑顔」について

コロナ感染拡大以降、改めて「笑顔」の社会における機能について考えている。
子どもたちは学校でマスクが通常になり、給食時に机をくっ付けてテーブルにすることもなくひとりの黙食を強いられた。
コロナ禍、子どもの笑顔は彼らと共に必要としていたのは誰なのか。震災以降、笑うことが難しくなったと感じる時代は続いている。大人にとっても彼らの笑顔は何を与えてくれるのか。
学校で学習机が集まり「テーブル」を作って会話の場が生まれた。そこには豊かな時間があり笑顔があった。
笑顔を気持ちをリセットしてくれる。
この「笑うテーブル」に座り下を向けば、天板にある様々な知らない人の笑顔と目が合う。
そこでいつもと違う生活の「流れ」を作れればと思っている。
テーブルの笑顔は紙に鉛筆でこすれば写し取ることができる。笑顔を持ち帰れる。※フロッタージュ
[テーブルの下にはコピー用紙と鉛筆を常備]

今回、このプロジェクトには私がかつて 5 カ所で撮影した人々の笑顔をモチーフにする。
そして新たに「キング軸」の周辺に住む人、働く人、学ぶ人の笑顔を撮影しテーブルに彫り続けたいと考えている。
笑うテーブルを増やし、さらに立ち止まれる場所を作り続けようと思っている。